

令和3年度実施施策に係る政策評価書

(文R3-11-3)

施策名	国際競技力の向上に向けた強力で持続可能な人材育成や環境整備	部局名	スポーツ庁競技スポーツ課	作成責任者	西川 由香
施策の概要	国際競技大会等において優れた成績を挙げる競技数が増加するよう、各中央競技団体が行う競技力強化を支援する。 日本オリンピック委員会（JOC）及び日本パラリンピック委員会（JPC）の設定したメダル獲得目標を踏まえつつ、我が国のトップアスリートが、オリンピック・パラリンピックにおいて過去最高の金メダル数を獲得する等優秀な成績を収めることができるよう支援する。			政策評価実施時期	令和4年度
施策に関する内閣の重要施策(主なもの)	第2期スポーツ基本計画第3章 など				
施策の予算額・執行額【千円】 (単独施策に係る予算)	区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求額
	当初予算	24,916,717	27,554,909	24,444,300	
	補正予算	3,823,835	2,378,948		
	繰越し等	▲ 3,031,049	-		
	合 計	25,709,503	29,933,857		
	執行額	25,572,549	-		

達成目標 1	中長期の強化戦略に基づく競技力強化を支援するシステムの確立、次世代アスリートを発掘・育成する戦略的な体制等の構築、スポーツ医・科学、技術開発、情報等による多面的で高度な支援の充実及びトップアスリート等のニーズに対応できる拠点の充実を通じて、各中央競技団体が行う競技力強化を支援する。						目標設定の考え方・根拠	第2期「スポーツ基本計画」（平成29年3月文部科学大臣決定）第3章3「国際競技力の向上に向けた強力で持続可能な人材育成や環境整備」を踏まえ設定。	
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠と、判定の理由
	—	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度		
①オリンピック競技大会における金メダル数	—	冬季：4	—	—	—	夏季：27 冬季：3	オリンピックにおける過去最高の金メダル数	A	【測定指標の選定理由及び目標値の設定根拠】 スポーツ基本計画において、JOC及びJPCの設定したメダル獲得目標を踏まえつつ、我が国のトップアスリートが、オリンピック・パラリンピックにおいて過去最高の金メダル数を獲得する等優秀な成績を収めることができるよう支援を目指すことと定められている。 新型コロナウイルス感染症の影響等により、JOCはメダル獲得目標の明確な数値を設定しなかったが、オリンピックにおける過去最高の金メダル数は、夏季：16個（2004年アテネ、1964年東京）、冬季：5個（1998年長野）であることから、これらを踏まえて目標値を設定。 【出典】文部科学省調べ 【判定の理由】 夏季大会・冬季大会を平均した目標値に対する実績値が80%以上120%未満のため、A判定とする。
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	夏季：16 冬季：5			
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠と、判定の理由
	—	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度		
②パラリンピック競技大会における金メダル数	—	冬季：3	—	—	—	夏季：13 冬季：4	パラリンピックにおける過去最高の金メダル数	C	【測定指標の選定理由及び目標値の設定根拠】 スポーツ基本計画において、JOC及びJPCの設定したメダル獲得目標を踏まえつつ、我が国のトップアスリートが、オリンピック・パラリンピックにおいて過去最高の金メダル数を獲得する等優秀な成績を収めることができるよう支援を目指すことと定められている。 新型コロナウイルス感染症の影響等により、JPCは、冬季大会においてメダル獲得目標の明確な数値を設定しなかったが、パラリンピックにおける過去最高の金メダル数は、夏季：17個（2004年アテネ、1988年ソウル）、冬季：12個（1998年長野）であることから、これらを踏まえて目標値を設定。 【出典】文部科学省調べ 【判定の理由】 夏季大会・冬季大会を平均した目標値に対する実績値が60%未満のため、C判定とする。
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	夏季：17 冬季：12			

測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠と、判定の理由
	H27年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度		
③オリンピック競技におけるメダルポテンシャルアスリート（MPA）数	108	157	169	168	168	180	過去最高のMPA数	A	<p>【測定指標の選定理由及び目標値の設定根拠】</p> <p>各競技の世界最高峰の大会における競技成績を基に毎年算出する、メダル獲得の可能性があるアスリート（メダルポテンシャルアスリート：MPA）数を測定指標とすることにより、毎年のオリンピック競技における強化の進捗状況を客観的に把握する。令和3年度においては、過去最高のMPA数を目標値として設定する。</p> <p>【出典】日本スポーツ振興センター調べ</p> <p>【算出方法】以下の方法で算出した夏季競技と冬季競技のMPA数の合計を指標とする。</p> <p>1.各競技における最高峰の大会（ベンチマーク大会）を設定する（オリンピック・パラリンピック開催年はオリンピック・パラリンピック。それ以外の年は多くの競技で世界選手権）。</p> <p>2.ベンチマーク大会において、8位以内に入った選手、ペア、団体・チームをMPAとする。</p> <p>3.順位はオリンピックのレギュレーションに合わせて再算出する（オリンピックにおける各国のエントリー枠が限られている場合など）。</p> <p>4.ベンチマーク大会が開催されない年は、直前のベンチマーク大会の成績をもって代用する。</p> <p>【判定の理由】</p> <p>目標値に対する実績値が80%以上120%未満のため、A判定とする。</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	168	169			
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠と、判定の理由
	H27年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3年度		
④パラリンピック競技におけるメダルポテンシャルアスリート（MPA）数	176	194	213	195	202	209	過去最高のMPA数	A	<p>【測定指標の選定理由及び目標値の設定根拠】</p> <p>各競技の世界最高峰の大会における競技成績を基に毎年算出する、メダル獲得の可能性があるアスリート（メダルポテンシャルアスリート：MPA）数を測定指標とすることにより、毎年のパラリンピック競技における強化の進捗状況を客観的に把握する。令和3年度においては、過去最高のMPA数を目標値として設定する。</p> <p>【出典】日本スポーツ振興センター調べ</p> <p>【算出方法】以下の方法で算出した夏季競技と冬季競技のMPA数の合計を指標とする。</p> <p>1.各競技における最高峰の大会（ベンチマーク大会）を設定する（オリンピック・パラリンピック開催年はオリンピック・パラリンピック。それ以外の年は多くの競技で世界選手権）。</p> <p>2.ベンチマーク大会において、8位以内に入った選手、ペア、団体・チームをMPAとする。</p> <p>3.順位はオリンピックのレギュレーションに合わせて再算出する（オリンピックにおける各国のエントリー枠が限られている場合など）。</p> <p>4.ベンチマーク大会が開催されない年は、直前のベンチマーク大会の成績をもって代用する。</p> <p>【判定の理由】</p> <p>目標値に対する実績値が80%以上120%未満のため、A判定とする。</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	195	213			
達成手段	ハイパフォーマンス・サポート事業、スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト、ハイパフォーマンススポーツセンターの基盤整備、ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点機能強化事業、競技力向上支援体制の充実、国民体育大会開催事業、日本オリンピック委員会補助、女性アスリートの育成・支援プロジェクト、独立行政法人日本スポーツ振興センター運営費交付金に必要な経費、独立行政法人日本スポーツ振興センター研究施設整備費補助金、独立行政法人日本スポーツ振興センター施設整備費補助金								

	<p>目標達成度合いの測定結果</p>	<p>相当程度進展あり</p>	<p>一部の測定指標で目標が達成されなかったが、主要な指標においては概ね目標を達成したため。</p>
<p>評価結果</p>	<p>施策の分析</p>	<p><b>【必要性】</b>          スポーツ基本法では、その前文において、「国際競技大会における日本人選手の活躍は、国民に誇りと喜び、夢と感動を与え、国民のスポーツへの関心を高めるものである。これらを通じて、スポーツは、我が国社会に活力を生み出し、国民経済の発展に広く寄与するものである。」と謳っており、我が国の発展のために国際競技力の向上は不可欠である。          また、第3期スポーツ基本計画（令和4年3月25日）では、【政策目標】として「（公財）日本オリンピック委員会（JOC）及び（公財）日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会（JPC）と連携し、各NFが行う競技力向上を支援する。そうした取組を通じ、夏季及び冬季それぞれのオリ・パラ競技大会並びに各競技の世界選手権等を含む主要国際大会において、過去最高水準の金メダル獲得数、メダル獲得総数、入賞数及びメダル獲得競技数等の実現を図る。」と記載されており、国際大会における日本代表選手の活躍に向けて政府を挙げて支援を行うことが求められている。</p> <p><b>【効率性】</b>          競技成績、強化戦略プランの計画性・実行性、KPIの達成度、組織体制（ガバナンス等）、経営基盤の強化・安定に向けた取組などを評価し、評価結果を競技力向上事業助成金の配分に活用しているほか、「メダル獲得の最大化」の考えの下、オリ・パラ競技大会に向けてメダル獲得の可能性が高い競技を「重点支援競技」として選定し、競技力向上事業助成金の額を加算するとともに、スポーツ医・科学、情報等に基づく専門的かつ高度なアスリート支援の対象競技として重点的な支援を行っており、効率的な施策の推進に取り組んでいる。</p> <p><b>【有効性】</b>          本施策は測定指標のうちAが半数以上であり、我が国の国際競技力向上に着実な進展が見られることから、本施策は一定の有効性が認められる。          一方で、R3年度に開催された東京大会等における日本代表選手の好成績を一過性のものとせず、少子化が進む我が国において、持続的に国際競技力向上を図ることが重要であり、特に、パラリンピック競技については、夏季・冬季ともに目標値を達成できていないことから、より有効な施策の推進が必要である。          このため、より多くの優れた能力を有するアスリートを発掘・育成・強化するための仕組みの構築や、全国におけるスポーツ医・科学の知見の活用による質の高いトレーニング環境の整備等を進める必要がある。</p>	
	<p>次期目標等への反映の方向性</p>	<p>第3期スポーツ基本計画（令和4年3月25日）及び持続可能な国際競技力向上プラン（令和3年12月27日）を踏まえ、国として、中央競技団体が行う選手強化活動への支援は継続しつつ、様々な関係機関による取組の有機的な連携を図り、地域とも一体となって、スポーツ医・科学に基づく戦略的なアスリートの発掘・育成・強化を推進し、我が国の国際競技力の一層の向上に取り組む。特に、パラリンピック競技については、タレント発掘のための取組の強化が、競技の裾野を広げ、将来有望な人材がスポーツを実施することにもつながることから、さらに幅広い層へのアプローチを目指して発掘・育成の取組を推進するとともに、必要なスタッフの配置等を支援し、更なる競技力向上に取り組む。</p> <p>なお、次期目標については、オリンピック・パラリンピック競技大会の金メダル数という指標では、4年に1度しか政策の効果を評価できないほか、日本が伝統的に強みを持つ特定の競技だけでなく、幅広い競技で競技水準が向上しているかどうかを適切に測ることが困難であるため、第3期スポーツ基本計画における政策目標を踏まえ、以下の要素を測定指標に加えることについて検討を進める。</p> <p>○夏季及び冬季それぞれのオリ・パラ競技大会並びに各競技の世界選手権等を含む主要国際大会における、過去最高水準の金メダル獲得数、メダル獲得総数、入賞数及びメダル獲得競技数</p> <p>&lt;主な概算要求&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技力向上事業（令和5年度概算要求：10,300百万円：拡充）</li> <li>・競技団体の組織基盤強化支援事業（令和5年度概算要求：600百万円：拡充）</li> <li>・地域における競技力向上を支える体制の構築（令和5年度概算要求：100百万円：新規）</li> </ul>	
<p>学識経験を有する者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・達成目標1の測定指標①②について、国家的に重要なのは、メダルを狙えるような層の厚さや、トップアスリートを継続して育成し得るようなシステムの方ではないかと思われるところ、メダルを獲得できるような環境整備の指標を加えるべきではないか。</li> <li>・施策のロジックモデルを検証する意味では、中間的な指標も含めることを検討しても良いのではないか。</li> <li>・パラリンピックについては、メダルイベント数が比較大会（長野パラリンピック）と直近大会では乖離があり、メダル獲得数で判定することの妥当性に疑問がある。</li> </ul>		